

マクベス

11/29 (土) : ヨガの後、クラパムの自宅の道路を渡った所にあるオムニバスに行きました。オムニバスは、元々は古い図書館だったのをアートセンター改造された複合施設で、ここ1年の間にオープンされました。マクベスのチケットを買いました。今日の公演が千秋楽で、プロムナードシアターです。

まだ劇を読んだ事ないのにシェークスピアを観に行くのはベストなのか、それとも先に読んでおくか迷いました。マクベスを学校では読んだのですが、劇を今になって初めて観るのです。劇全体をつかめないかもしれませんが、知っているし、「理解できる」でしょう。なぜならばマクベスは、感情的に皆さんを飲み込み、その感情を通して美しさを与えてくれるからです。そして、劇を観終わった今は、メモを見ながらもっと詳しく検証するためにマクベスを読んでいるところです。そうすれば次回観るときは、もっと色んな情報を得られるでしょう。例えば、「グレイマルキン」とはおそらく猫の名前で、「マルキン」はメアリーと言う名の略名、そして「ペドック」はカエルの地方での呼び名だと分かるでしょう。しかし劇を観た時、既にそれらの名前が魔女の使いの精の名前だと推測していました。

私とアンドレアスはWCで、クラパム・コモン駅にあった100年前の水洗便所を見物に来ていた人達に遭遇しました。今ではそこはワインバーへと変わってしまいました。バンド付きのヘッドライトをそれぞれ渡され、魔女に出くわすことになる暗いコモン(公園)へと向かいます。

THE TRAGEDY OF MACBETH

ACT I

SCENE I.—[*An open place.*]

Thunder and lightning. Enter three WITCHES.

1 *Witch.* When shall we three meet again?

In thunder, lightning, or in rain?

2 *Witch.* When the hurlyburly's done,

When the battle's lost and won.

3 *Witch.* That will be ere the set of sun.

1 *Witch.* Where the place?

2 *Witch.* Upon the heath.

3 *Witch.* There to meet with Macbeth.

1 *Witch.* I come, Graymalkin!

2 *Witch.* Paddock calls.

3 *Witch.* Anon!

All. Fair is foul, and foul is fair:

Hover through the fog and filthy air.

第一幕

雷と稲妻。三人の魔女の入場

魔女 1. わしら 3 人、どこで会いましょうか。

雷、稲妻、それとも雨の中。

魔女 2. あの騒ぎがおさまったら、

あの戦いの決着がついてから。

魔女 3. それなら日没前になるだろうね。

魔女 1. 場所はどこ。

魔女 2. ヒースで。

魔女 3. そこでマクベスに会おう。

魔女 1. 猫のグレイマルキンよ、行くからね。

魔女 2. ヒキガエルのパドックが呼んでいる。

魔女 3. 今すぐ行くよ!

全員. 美しいものは醜く、醜いものは美しい。

霧と濁った空気の中を飛んで行こう。

それから速やかに次の幕へと変わります。—ダンカン王の陣営です。

SCENE II.—[*A camp.*]

*Alarum within. Enter KING DUNCAN, MALCOLM, DONAL-
BAIN, LENOX, with Attendants, meeting a bleeding Captain.*

Dun. What bloody man is that? He can report,
As seemeth by his plight, of the revolt
The newest state.

第二幕

舞台奥から舞台招集の合図の音。ダンカン、マルコム、ドナルベイン、レノックス、従者達を連れて入場。血だらけの男を見る。

ダンカン. あの血だらけの男はどうしたのだ。その深傷からすると、謀反の最新情報が得られそうだな。

ドラマと簡潔な詩を得ます。彼は戦いのヒーロである、マクベスの功業について話します。

次は空っぽの浅いプールへと移ります。そこではたき火をしている魔女達にまた会います。魔女達は全員マフラーを巻き、自分たちの策略を歌い、マクベスとバンクォウを待ち構えます。魔女の一人がビニールシートを風よけとしてジャケットの下から垂らし、スクーターに乗り、池の周りを走ります。

- 1 *Witch.* All hail, Macbeth! hail to thee, Thane of Glamis!
- 2 *Witch.* All hail, Macbeth! hail to thee, Thane of Cawdor!
- 3 *Witch.* All hail, Macbeth! that shalt be King hereafter.

- 魔女 1. 万歳、マクベス！グラミスの領主よ！
- 魔女 2. 万歳、マクベス！コーダの領主よ！
- 魔女 3. 万歳、マクベス！お前は王になる。

ここで劇を通して見られる曖昧(*equivocation*)な表現が一つあります。equivocal、すなわち2つの等しい声。なぜならば良いと思えるものは、よく悪いものでもあるからです。マクベスは既にグラミスの領主です。魔女達が消えた時に、ダンカンはコーダの領主となり、今や王になろうとしていると使者が告げに来ました。マクベスは既にダンカンを殺す事を考えています。

This supernatural soliciting
Cannot be ill; cannot be good:—
If ill, why hath it given me earnest of success,
Commencing in a truth? I am Thane of Cawdor:
If good, why do I yield to that suggestion
Whose horrid image doth unfix my hair,
And make my seated heart knock at my ribs,
Against the use of nature? Present fears
Are less than horrible imaginings.
My thought, whose murder yet is but fantastical, (imaginary)
Shakes so my single state of man,
That function is smother'd in surmise,
And nothing is, but what is not.

あの超自然的なものの誘いは、
悪いはずがない、良いはずもない。
もしも悪いのなら、なぜ本当の事を先に出して
成功の手付けを与えたのか。私はコーダの領主になったのだ。
もし良いのなら、私はなぜこの誘惑に圧倒されているのか
恐ろしい心の光景に髪は逆立ち、
しっかり据わった心臓の鼓動が、自然の働きに逆らって、
あばら骨を売っている。今の恐怖は
想像の恐ろしさに及ばない。
ダンカンを殺すのはまだ想像にすぎないのに、
私の胸の思いは、あれこれの惑いの中で
息が詰まりそうな私自身を揺さぶっている、
在るのは、無いものばかりだ。

スピーチ最後の、この部分の何と心理的に深いことでしょう。今のところまで、マクベスの「single state of man (自分自身)」は完全で、全体的に彼のアイデンティティははつきりしています。自身であるがために、マクベスは自身を分かっているのです。もし彼が殺人者となるならば、彼のアイデンティティは崩壊するでしょう。それだけでなく、彼は現実の掴み方も失い、もし彼の支えとなるものが進んでしまえば、彼の世界は粉碎するのです。

それから道路の向こうにある図書館（今はオムニバス）へと移ります。避難階段の後ろの方に回ります。そのてっぺんでは、そこがまるでマクベス夫人の城の城壁であるかのように、夫人はもたれかかり、マクベスの手紙を読んでいます。彼女は寝間着に、ボクサーショーツ、ベスト、白い布をまとい、タバコを巻いています。

コスチュームデザインは普通の近代的なものです。しかし本当によく考慮されていました。例えば、マクベスが武装する時は、みなさんがよくリュックサックの上から付けているような、ボンデージタイプのハーネスを服の上か

ら付けたり、マクベスが王になった時は、代わりに古い皮のタスキをかけた
りしていました。

アンドレアや他の人達とコモン（公園）を渡って、本当にロマンチックなウ
ォーキングでした。しかし今、私たちは建物の中にいます。プロムナードシ
アターが、ステージ上でされる劇よりいくぶん面白いものかどうか分かりま
せん。しかしこのマクベスはとてもよく出来ており、私はフルに集中してい
ました。

この劇を作ったのはまさに 演技、そしてもちろん天才シェークスピアです。
これは私にとって本当に、人生を高める劇場経験の一つとなりました。その
気持ちを忘れないでおきます。キャストも本当によくできていました。素晴
らしい！

マクベスは痩せていて、美しい。そして夫人は小さくて力強い。二人は一
組となっていました。私には彼らが 10 代の子供の頃、性的に惹かれ合い、
野心があったと想像できます。（マクベスは手紙の中で、彼女のことを「**my
dearest partner in greatness**（私の最愛の伴侶）」と呼んでいます。）

ここで劇の話をもめて、過去を探求した時に、私の心に響いたことを一つ述
べておきたいと思います。人生の短さについて。昔、人は若くして亡くなり、
幼児死亡率も高かったのです。それで幼少時代というもの重要ではなく、
成長すると、女の子は若くして結婚しました。シェークスピア自身は 50 代
で引退しました。多分（当時の）田舎の紳士としての生活を満たすために。
その後すぐに亡くなりました。

私がマクベスを「理解した」時に、この事実が頭に浮かんできました。マク
ベスを理解していなかった以前は、どうやったら彼はそんなに酷い殺人者にな
れるのだろうかと思っていました。しかし今、気付きました。この二人の行
為は、偉大になるという野心のため、すぐに、そして冷酷に行なわれなけれ
ばならなかったのです。そしてそれこそが性的魅力であり、二人の行動が合
致するところだったのです。

無駄の無い演技はドラマチックで、詩の独創性により高速に展開されます。
シェークスピアは登場人物を崇高にします。彼は自身の詩を登場人物の口を
通して語り、こうすることによって、私たちは登場人物の行動の心理的な基
盤を信じることになるのです。

シェークスピアの時代の信念を、マクベス夫人の欲望を精霊の形にして外面
化することによって表しているのです。何て劇的に力強いのでしょうか。彼女
は野心を実際のものとするため、精霊を引き込みます。

Come, you Spirits

That tend on mortal thoughts, unsex me here,
And fill me, from the crown to the toe, top-full
Of direst cruelty! make thick my blood,
Stop up th'access and passage to remorse;
That no compunctious visitings of Nature
Shake my fell purpose, nor keep peace between
Th'effect and it! Come to my woman's breasts,
And take my milk for gall, you murth'ring ministers,
Wherever in your sightless substances
You wait on Nature's mischief! Come, thick Night,
And pall thee in the dunnest smoke of Hell,
That my keen knife see not the wound it makes,
Nor Heaven peep through the blanket of the dark,
To cry, 'Hold, hold!'

来れ、
殺意の精霊たちよ、私の女らしさを抹殺し、
頭のとっぺんからつま先まで、全身、残忍な殺意で満たすのだ！
私の血の気を濃くせよ、
哀れみの情へ通う道を遮断せよ、
そうすれば、良心の呵責という人情が
私の残忍な目的を同様させることもなく、
目的が結果に一致する！
暗殺の天使たちよ、私の女の胸元に来て、
甘いミルクを苦い胆汁に変えよ、お前達はどこにいて、
姿形を見せず、人間の破滅を待っている！深い夜よ、来れ、
地獄の真っ暗な噴煙をまとえ、
私の光る刃にその傷口が見えないように、
天が暗闇の毛布を覗き込み、
「やめろ、やめろ！」と叫ばないように。

彼女が集める、そしてマクベスを殺人へと引き寄せるその強さは、彼女の破滅の原因です。精霊達は曖昧で、マクベスを乱し、彼女を発狂させます。

ここで劇を通して見られる *equivocation* (曖昧な、人を欺く。マクベスが上演される際の視覚的、聴覚的に必要な表現) が一つあります。equi-vocal、すなわち2つの等しい声。なぜならば真実や本物ととらえられたものは隠された欺瞞であり、それが逆発することが含まれているからです。そこにはたくさんのサスペンスと衝撃があります。equivocation と裏に潜んだテーマとが繋がり、それはより深いテーマとなるのです。そしてそれが、私たち人間が完全になれるという信念なのです。すなわち、上向きの超絶性。私たちが人間とするものは、私たちの人間性なのです。殺人は真の自然に対して、下向きの超絶性、人間性がなく、自然なものではないのです。

マクベスは王になりたい、しかしダンカンを殺す事には躊躇っています。マクベス夫人は、彼の男らしさに訴えかけ、彼の英雄的な外的人格がその行為をおかすこととなります。彼はやってしまったことにぞっとして寝室から出てきます。

**Will all great Neptune's ocean wash this blood
Clean from my hand? No, this my hand will rather
The multitudinous seas incarnadine,
Making the green one red.**

海の神ネプチューンの全部の海を集めたら、この血を、俺の手からきれいに洗い流せるだろうか。いや、この手が世界の中の青い海を、真っ赤に染めるだろう。

マクベスは自身が犯した殺人の過程を述べますが、自身を人（自分自身）として統合させることができません。殺人者は壊れた人間である、彼は決して自分自身を完全なものにすることができないのです。

**For mine own good,
All causes shall give way: I am in blood
Stepp'd in so far, that, should I wade no more,
Returning were as tedious as go o'er.**

俺の運としては、
全ての大義名分はなくなった。俺は血溜まりに
足を深く踏み込んで、立ち往生している、
行くも帰るもどうにもならない。

夜中に、マクベスは自分の未来について聞きに魔女達の所へ行きます。この幕で、シェークスピアと魔女達は、完全なサスペンスの、時間を超えた瞬間を目の前に呼び出します。見ている側は、時間の外に漂っている状態になるのです。時は止まり、終わりもありません。魔法を使って、魔女達は3つの象徴的な亡霊を呼び出します。この地球ではなく、黄金で血色の、equivocation（曖昧な）を話す亡霊。その亡霊が何と言っているか聞こえますが、意味していることは分かりません。そのドラマにぞくぞくし、最後まで行くと、それらが誰なのか分かるでしょう。

マクベスは、「バーナムの森がダンシネンに来る」まで制服されることはないだろうと告げられます。彼の城と彼自身は「女から産まれた男」に殺されることはないのです。しかしそれはあながち嘘でもないのです。equivocal（曖昧）なのです。なぜなら森は本当に動くし、彼は産まれてはいない男によって殺されるからです。

**I pull in resolution; and begin
To doubt th'equivocation of the fiend,
That lies like truth: 'Fear not, till Birnam wood
Do come to Dunsinane';—and now a wood
Comes toward Dunsinane.—Arm, arm, and out!—**

俺の自信がぐらついている、
あの亡霊は、真実のように見せかけて
嘘をついたのではないか、「恐れるな、バーナムの森が
ダンシネンに来るまでは」と言ったぞ、そして今、森は
ダンシネンに向かっている。—出陣だ、武器を取れ、突撃だ！

マクベスを捕えにやって来る軍隊を待っている間、マクベスは自身の輝かしい人生を振り返り、アドレナリンに溢れ、乱暴に出ます。

**To-morrow, and to-morrow, and to-morrow,
Creeps in this petty pace from day to day,
To the last syllable of recorded time;
And all our yesterdays have lighted fools
The way to dusty death. Out, out, brief candle!
Life's but a walking shadow; a poor player,
That struts and frets his hour upon the stage,
And then is heard no more: it is a tale
Told by an idiot, full of sound and fury,
Signifying nothing.**

明日、明日、明日と言う日は、
日一日確かな足取りで、
人間の歴史の最後の一節まで忍び寄ってゆく。
昨日という全ての日々は、愚か者達に、終わりには塵となる
死への道を照らして来た。消えろ、消えろ、束の間のろうそく！
人生は歩く影に過ぎない、下手な役者だ、
出番の時は舞台の上で派手な身振りも大きなため息もつくが、
終わるとふっと居なくなる。人生は
白痴の語る物語だ、響きも感情も騒々しいだけで、
そこには何の意味もない。

なぜこの人間の行動は、時間が早く経過することを望むのでしょうか。確実にシェークスピアはセネカ（シェークスピアの時代にはよく読まれました）を反響させています。セネカは*人生の短さについて*という短い論文を書きました。彼は、私たちは哲学を通してアリストテレスに精通するようになり、過去と繋がることを勧めました。すなわち、人が人生の使い方を知っていれば人生は長い。私はさらにこう付け加えます、アートを通して文化に結びつくこと。素晴らしい本に自分自身を同化させることは、もう一つの人生を生きること、自分自身にそれを付け加えて、経験

が2倍になるのだという話はしたことがあるかしら。最近の物を、単に消費して追いかけているだけでは、人生は短いものです。それだと自分に支えとなるものがないのですから。

But life is very short and anxious for those who forget the past, neglect the present, and fear the future. When they come to the end of it, the poor wretches realize too late that for all this time they have been preoccupied in doing nothing. And the fact that they sometimes invoke death is no proof that their lives seem long. Their own folly afflicts them with restless emotions which hurl themselves upon the very things they fear: they often long for death because they fear it. Nor is this a proof that they are living for a long time that the day often seems long to them, or that they complain that the hours pass slowly until the time fixed for dinner arrives. For as soon as their preoccupations fail them, they are restless with nothing to do, not knowing how to dispose of their leisure or make the time pass. And so they are anxious for something else to do, and all the intervening time is wearisome: really, it is just as when a gladiatorial show has been announced, or they are looking forward to the appointed time of some other exhibition or amusement – they want to leap over the days in between. Any deferment of the longed-for event is tedious to them.

セネカ：

しかし過去を忘れ、現在を無視し、未来を恐れる人達にとって、人生は短くて不安だらけだ。彼らの人生がその終わりに来た時、貧しく惨めな者達は、何をするともなく時が過ぎてしまい、遅過ぎたと気付くのである。そして彼らが時々死を呼び起こすという事実は、彼らの人生が長いと思える証拠ではないのだ。彼らの愚かさが、落ち着かない感情で彼らのまさに恐れるものに飛びかかり、彼ら自身を苦しめるのだ。彼らは死を恐れるが故に、しばし死を待ち望むのだ。日々が彼らにとって長く思えるように、または夕食が整えられるまで時間がゆっくりとしか経過しないと文句を言うほど、彼らが長く生きているという証拠もない。彼らは夢中になっているものがなくなるやいなや、何もしないことに、楽しみへの始末の付け方、時間の経過のさせ方も知らず、落ち着かなくなるのだ。そしてそれで彼らは何か他の事をしなければと不安になる。そしてその介在する全ての時間が退屈なのだ。本当に、見せしめの戦闘が告知された時、または他の展覧会や娯楽の約束を楽しみにする時だけなのだ。彼らはその間にある日々を飛び越したが。待望のイベントが延期するなど、彼らにとってつまらないことなのだ。

ハムレットの有名な台詞、「生きるべきか死ぬべきか」は、まさに哲学の基本です。行動・演技＝死／思考・熟考＝人生



マクベス役のグレゴリー・フィニーガンとマクベス夫人役のジェニファー・ジャクソン

MACBETH

A PROMENADE PRODUCTION
AT OMNIBUS AND CLAPHAM COMMON

CAST

In order of appearance

Lady Macduff / Witch 1 / Murderer / Gentlewoman	HANNAH JAMES-SCOTT
Malcolm / Witch 2 / Murderer	ALEX PHELPS
Witch 3 / Porter / Young Siward	LUKE ADAMSON
Macduff / Sergeant	JACK BENNETT
Duncan / Siward / Lord	STEPHEN SCOTT
Ross	FRANCESCA TOMLINSON
Macbeth	GREGORY FINNEGAN
Banquo / Seyton	SAMUEL COLLINGS
Lady Macbeth	JENNIFER JACKSON

CREATIVE TEAM

Director	GEMMA KERR
Producer	MICHELLE OWOO
Designer	LORNA RITCHIE
Lighting Designer	WILLIAM REYNOLDS
Sound Designer	EDWARD LEWIS